


ダイクレ アコモディオンアーチ

幌 製 作 要 領 書

型 式 説 明

幌 製 作 基 準

販 売 元 株式会社 クレオ

製 造 元 技術に生きる
 株式会社 **ダイクレ**

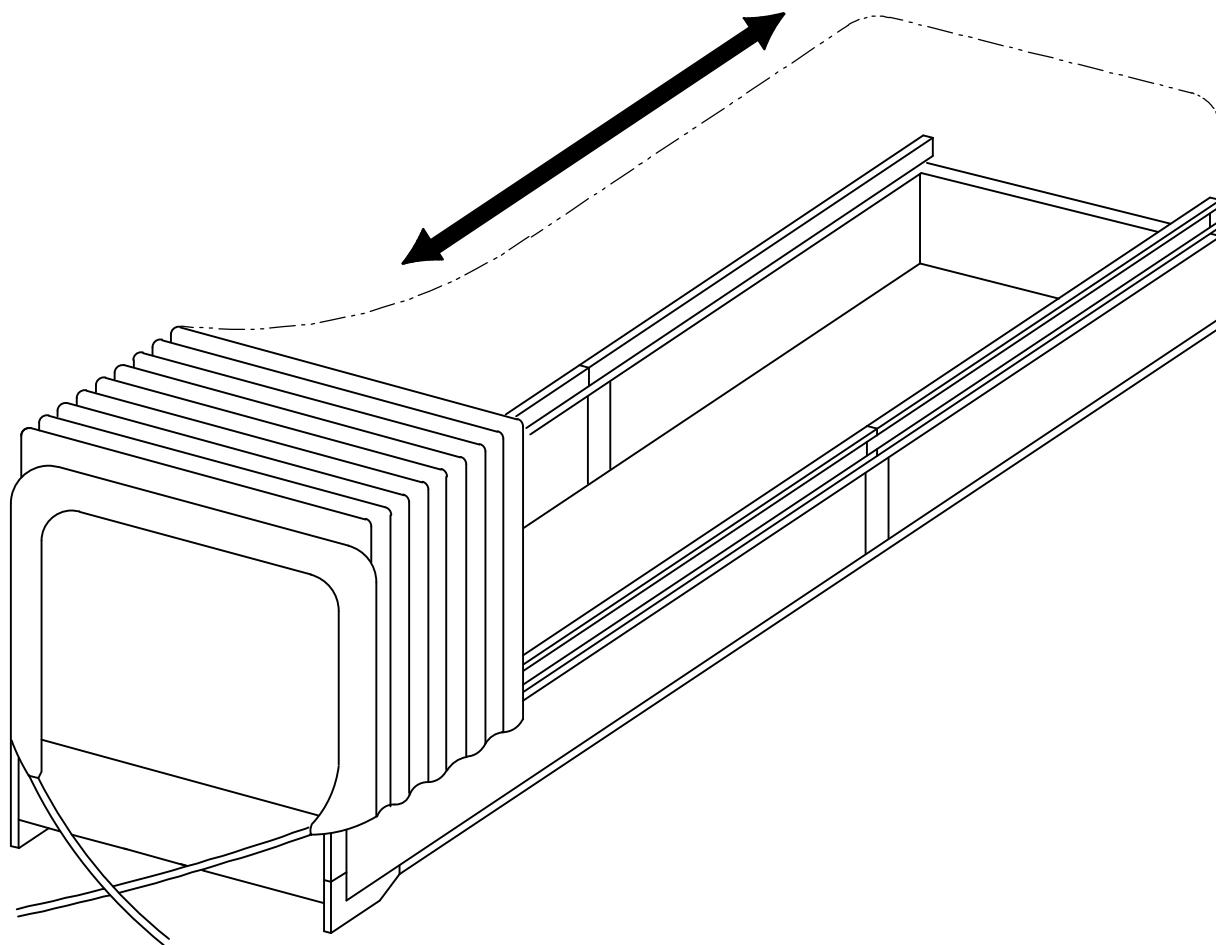
目 次

1 .	アコーディオンアーチについて	-----	1
2 .	型 式 説 明	-----	2
3 .	構 造	-----	3
4 .	幌 製 作 要 領	-----	4
4 - 1	幌 の 構 成	-----	4
4 - 2	幌 製 作 基 準	-----	5
4 - 3	そ の 他 注 意 事 項	-----	7

1. アコーディオンアーチについて

アコーディオンアーチは、幌（幌骨）をアコーディオン式に伸縮できる構造にしたものです。

アコーディオンアーチは、幌との総合体として、初めてその機能を満足させることができます。

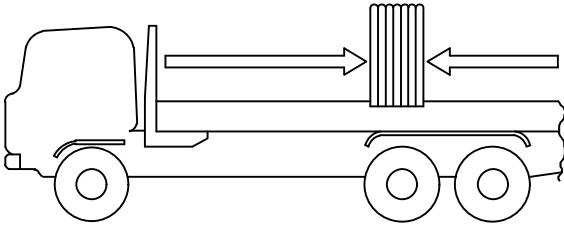


幌の製作には、アコーディオンアーチ独自の要領が有ります。

幌の製作に当たっては、後記、幌製作要領を参照して下さい。また、幌を製作される前に、実際にアコーディオンアーチを操作し、その作動を充分確認して下さい。

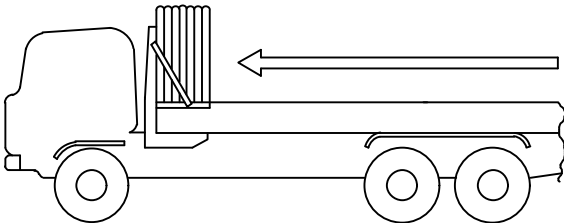
アコーディオンアーチには、下記の型式があります。

1) ABタイプ (前後収納型)



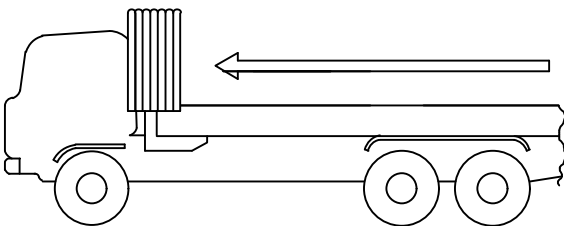
- ・ ホロは前・後両方から開閉できます。
- ・ ホロの収納場所は荷台前方でも、荷台後方でも任意の場所で行えます。
- ・ アオリ5方開、7方開の場合、ホロを前方に収納することで、後部アオリの開閉ができ、またホロを後方に収納することで前部アオリが開閉できます。

2) AZタイプ (前方収納型)



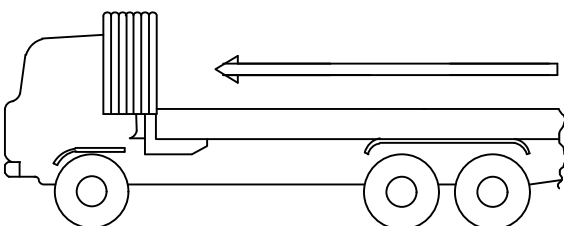
- ・ ホロは荷台後方から鳥居後部に縮めます。
- ・ ホロ収納場所は鳥居後部になります。
- ・ 収納レールを鳥居から吊り下げ固定する方法なので3方開でもアオリは開閉できます。
- ・ 蛇腹前端は、鳥居に固定されます。

3) CHタイプ (キャブ上半突出型)



- ・ ホロは荷台後方より前方に縮めます。
- ・ ホロ収納場所は鳥居を越えてキャブ上で行います。
- ・ ホロ収納場所はキャブ上ドアの位置まで突出させ、残りは荷台側に残ります。
- ・ ホロ収納用レールは鳥居に固定します。したがって、ホロ収納時、側アオリは全て開閉できます。
- ・ ホロを展開している時は、キャブ上に突出させたレールは折り上げた状態にします。

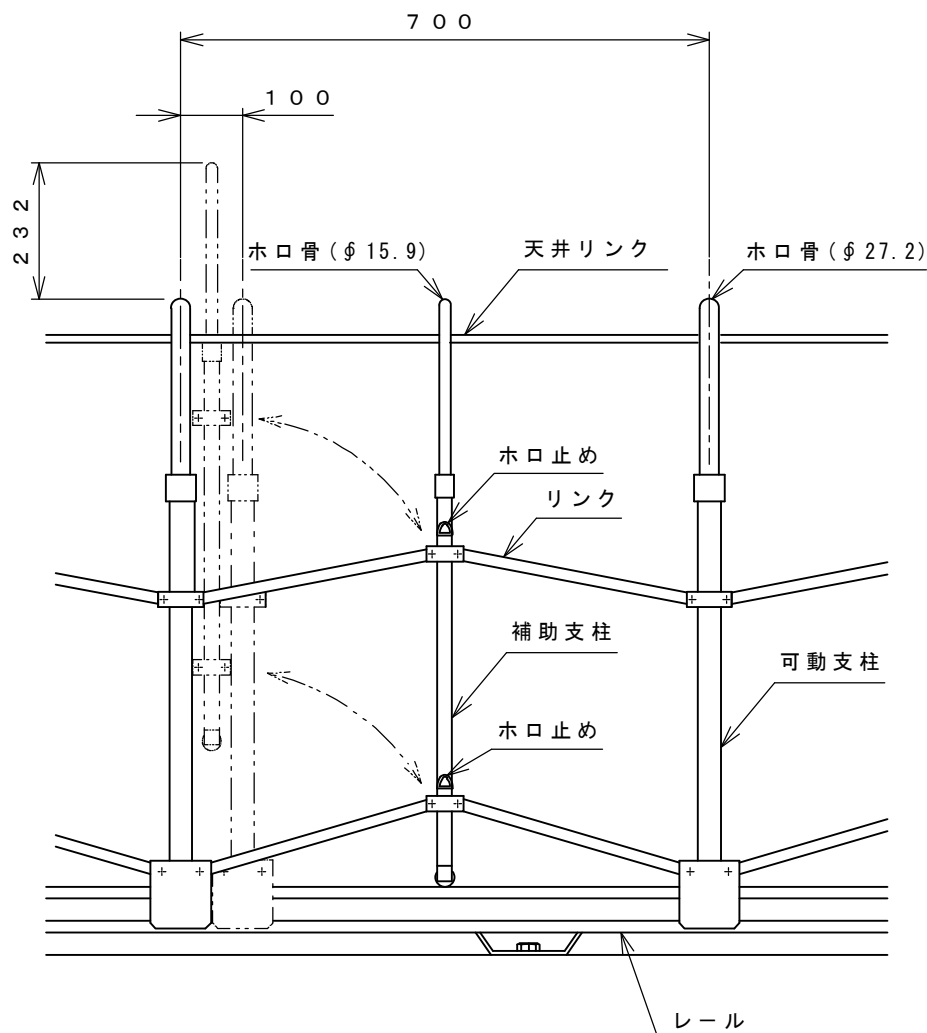
4) CZタイプ (キャブ上全突出型)



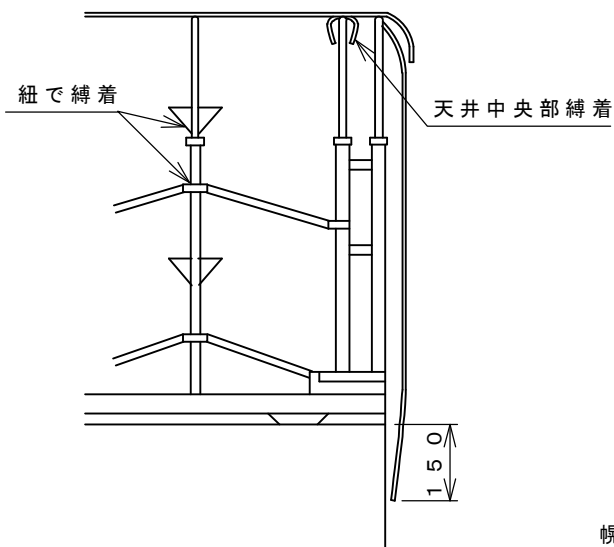
- ・ ホロは荷台後方より前方に縮めます。
- ・ ホロ収納場所は鳥居を越えてキャブ上で行います。
- ・ ホロ収納部は、キャブ上に全突出させます。
- ・ ホロ収納時は、キャブのドアの開閉はできません。
- ・ ホロを展開している時は、キャブ上に突出させたレールは、折り上げた状態にします。
- ・ キャブにレールが当たる場合、後方に収納するタイプもあります。

3. 構造

- 1) 差し込み式ホロ骨、支柱、レールの3ブロックで構成しています。
- 2) レールは側アオリ、および鳥居に固定します。各ホロ骨、そして各支柱はリンクによって接続され、レール上を移動します。
- 3) 支柱部リンクは、前後方向に力を伝え、天井部リンクは横方向に力を伝えます。したがって、前端または、後端支柱の一方に力を加えると前後方向、横方向に力が伝わりホロの開閉が行えます。
- 4) 各ホロ骨は、前後端部を除いて、700mm間隔になっています。(ホロ骨は、径が $\phi 27.2$ と $\phi 15.9$ と2種類あります。それぞれが700mm間隔となっています。)
- 5) アコーディオンアーチを閉じる場合、支柱部リンクにより補助支柱(径 $\phi 15.9$ のホロ骨が差し込まれている)を約232mm押し上げます。
したがって、補助支柱に差し込まれているホロ骨により、幌を押し上げ、幌の室内へのタレ下がりを防ぎます。
- 6) 各補助支柱には、それぞれ2箇所、ホロ止め用のリングがついています。それにホロを縛着することで、アコーディオンアーチと幌が一体となります。
(可動支柱に幌を縛着すると、幌によりアコーディオンアーチの作動が妨げられ、開閉しなくなりますので注意して下さい。)



4-1 幌の構成



- 1) 幌は、幌前ダレ①、幌本体②、そして幌後ダレ③の3つで構成します。
- 2) 幌前ダレ①は、固定アーチ（鳥居部）に固定します。
- 3) 幌本体②は、アコーディオンアーチに被わせて固定します。

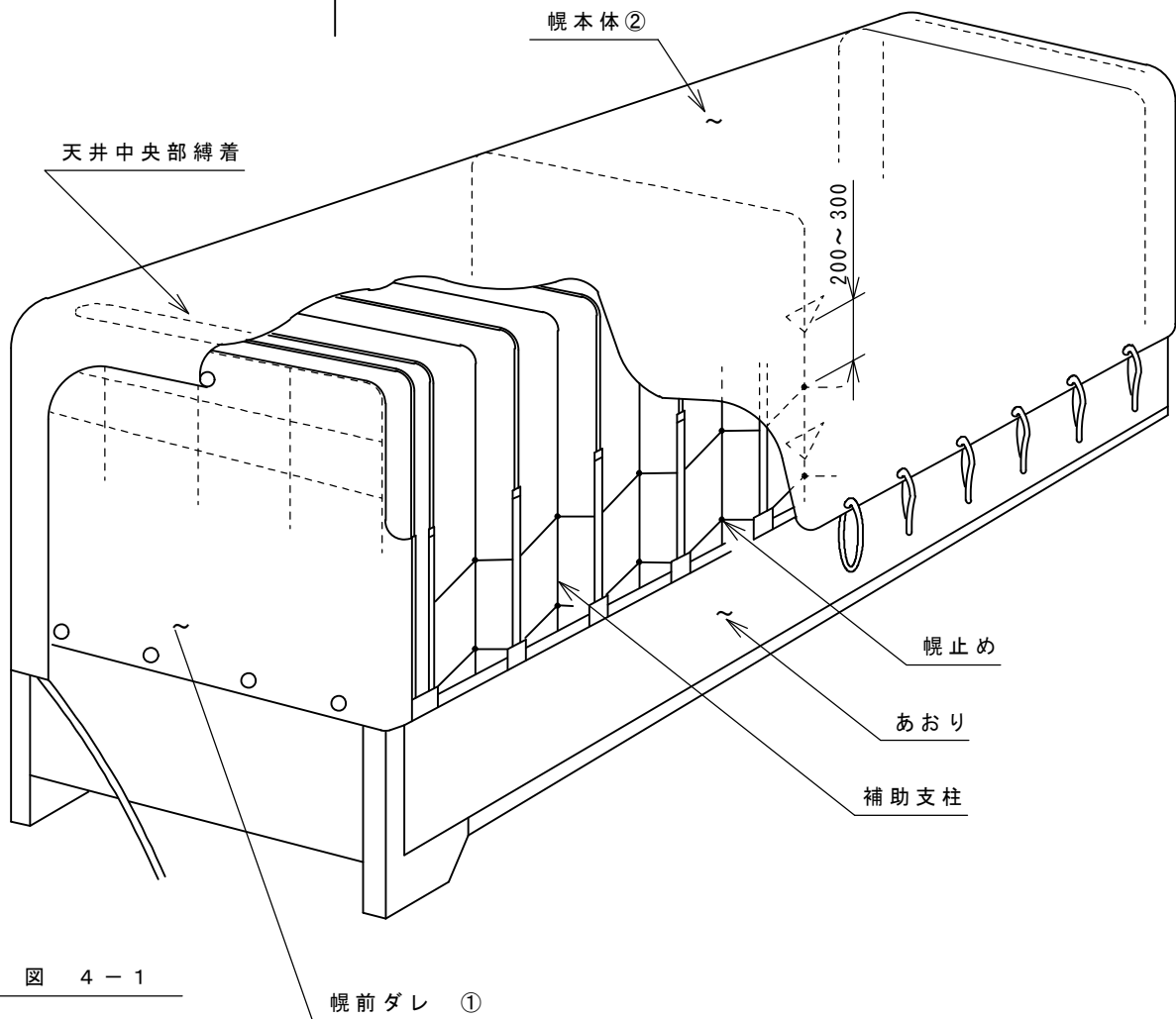


図 4-1

- 4) 幌本体②は、前端及び後ろよりより2本目のホリ骨、中央部そして各補助支柱に縛着します。
- 5) 幌後ダレ③は、後端のホリ骨に固定します。
- 6) 幌前ダレ①、幌本体②、幌後ダレ③の裾には、ゴムバンドまたはロープを通し、車体の“フック”に掛けられるようにします。

4 - 2 製作基準

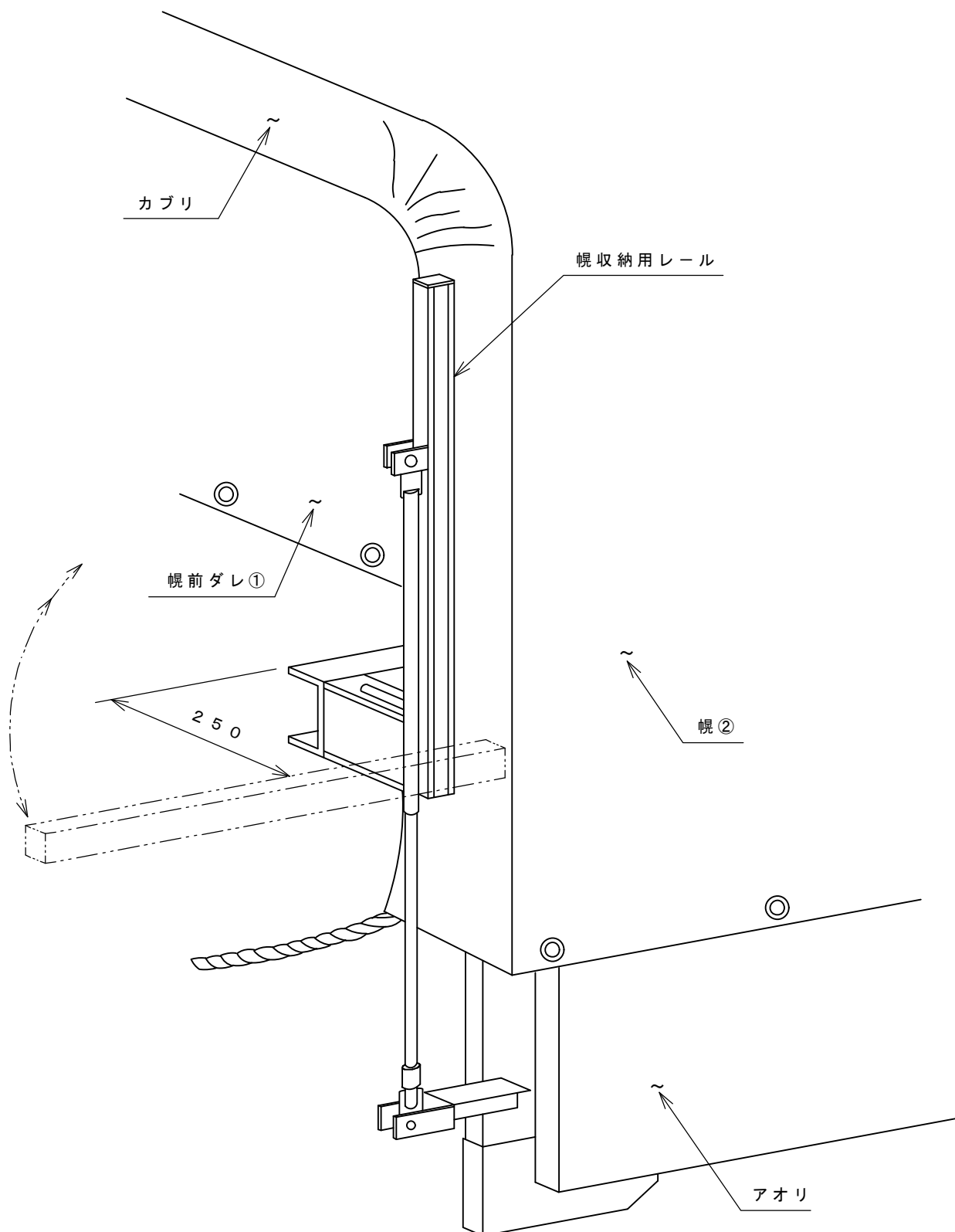
下記 1) ~ 6) 、および図 4 - 2 、幌製作参考図を参照して下さい。

- 1) 幌の材質は、経年変化の小さいものを使用して下さい。
(ポリエステル 4 ~ 5 号程度を推奨します。)
- 2) 幌前ダレ①は、
上部を袋状に製作し、固定アーチに被せられるようにする。
下端には、鳩目 (#30 黄銅) を取付け、車体にロープで縛着出来る様にする。
- 3) 幌②は、
天井中央部の前側及び後側へ、ホロ骨に縛着出来る様に、バンド④、及び⑤を取付ける。
前側のバンド④は、最前端のホロ骨に縛着し、後側のバンド⑤は、後ろより 2 番目のホロ骨に縛着して下さい。また、バンド⑤は、幌の経年変化による伸び、縮みを吸収出来るようにバンド幅を広く (約 250 mm) して、余裕をもたせてホロ骨に縛着する様にして下さい。側面には、各補助支柱に付いている幌止め用リングに縛着出来るように、三角布⑥を取付けて下さい。三角布⑥には鳩目 (#28 黄銅) を付けて下さい。
鳩目の位置を幌止め用リングより 200 mm 程度上にして下さい。縛着は、鳩目と幌止め用リングをヒモでむすんで下さい。両側の下端部 (裾) には、ゴムバンドまたはロープが入る様に鳩目 (#30 黄銅) を取付けて下さい。ホロ骨の肩が当たる部分には、肩当て⑦を取り付けて下さい。(材質は幌②と同質のものを使用して下さい。)
前後端の前ダレ①及び後ダレ②へのかぶりは 200 mm 以上として下さい。
側面アオリへのかぶりは 150 mm 以上として下さい。
- 4) 幌後ダレ③は、
幌②に縫いつけて上に巻き上げられる様にするか、上部を袋状にして、ホロ骨に被せるか、カーテン式にするか、これはユーザーと相談の上、決定して下さい。上に巻き上げる様にする場合、巻き上げた時の固定用バンドを幌②に取付けて下さい。
下端 (裾) には、鳩目 (#30 黄銅) を取付けて下さい。
後部アオリへのかぶりは 150 mm 以上にして下さい。
- 5) 幌製作に必要な各寸法は、アコーディオンアーチの架装が完了した後、それぞれ実測して下さい。

4-3 その他注意事項

- 1) CH、CZタイプ（キャブ上突出型）の場合、幌を収納する時、幌収納用レールをたおし鳥居を越えて、キャブ上に幌を収納します。

通常は、幌収納レールは、上に折り上げた状態にしています。この時は、下図に示すようにホロ収納用レールと鳥居の間には、間隔が出来ます。これに幌のカブリを入れて下さい。この間隔は、荷台内面より250mm内まで有ります。従って、カブリは、250mmまで取れます。



販売元 株式会社 クレオ

本社

〒737-0154 広島県呉市仁方棧橋通1493-199

TEL (0823) 79-6935

アーチ直通 TEL (0823) 79-1633

FAX (0823) 79-6937